

## 平成28年度 第1回半田市地域公共交通会議事録

開催日時	平成28年5月30日（月）	10時00分～12時15分
開催場所	半田市役所4階 大会議室	
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 会長あいさつ</li> <li>3. 新たな委員の任命について</li> <li>4. 委嘱状の交付</li> <li>5. 講演「地域公共交通について」 講師：名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻准教授</li> <li>6. 地域公共交通会議について 説明者：国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官</li> <li>7. 議題             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 半田市地域公共交通網形成計画・再編実施計画策定に向けたスケジュールについて</li> <li>(2) 路線バス運行経路の一部見直し（案）について 説明者：知多乗合株式会社取締役バス営業本部長</li> <li>(3) 先進地視察の実施について</li> </ol> </li> <li>8. 情報交換</li> <li>9. その他</li> </ol>	
出席委員 【欠席委員】	<p>（会長） 半田市 副市長 （委員） 知多乗合株式会社取締役バス営業本部長 安全タクシー株式会社代表取締役（代理：業務部長） 愛知県タクシー協会知多支部長 公益社団法人愛知県バス協会専務理事</p>	

	<p>国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官  名鉄知多タクシー労働組合執行委員長  愛知県知多建設事務所維持管理課長  【愛知県半田警察署交通課長】  亀崎地区代表区長  乙川地区代表区長  半田地区代表区長  成岩地区代表区長  半田商工会議所福祉共済課長  社会福祉法人半田市社会福祉協議会事務局長  半田市老人クラブ連合会会長  特定非営利活動法人半田市観光協会事務局長  一般市民（市民公募）  名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻准教授  半田市総務部長  半田市建設部長  半田市市民経済部長  半田市議会議員  名古屋鉄道株式会社中部支配人（代理：中部支配人室営業総務課長）  愛知県振興部交通対策課主幹  ※敬称略</p>
事務局	<p>防災監 齊藤清勝  防災交通課 副主幹 間瀬恒幸、主事 石川修平</p>

次 第	議事概要
2. あいさつ	<p>(会長あいさつ)</p> <p>本日は、ご多用の中を多くの委員の方にご出席いただき、ありがとうございます。この地域公共交通会議は、第1回と申し上げたが、本年1月28日に第1回を開催しており実質的には第2回目となる。地域の公共交通に抱かれる皆さんのイメージは様々だと思うが、半田市をひとつの体に例えると、その中で動く公共交通網は正に動脈にあたる。その動脈の血流が滞れば体は死んでしまう。逆に、体内の血流が良ければ活力ある体力が保てる。そのためにも半田市のまちに相応しい交通体系を考えていくことは、半田市の将来の活性化を考えていく上で意義深い。</p> <p>今日は、今後の進め方が主な課題となっている。それぞれの立場でご意見をお願いしたい。</p>
3. 新たな委員の選出 委嘱状交付	<p>(事務局)</p> <p>本日の会議から次の2名の委員を任命する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・半田市議会議員、市民公募委員</li> </ul> <p>新たな2名の委員の委嘱状交付並びに前任の方から交代して新たに委員になられた方7名の委嘱状交付</p>
4. 講演「地域公共交通について」	<p>講演：「地域公共交通について」</p> <p>講師：名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻准教授</p>
5. 地域公共交通会議について	<p>「地域公共交通会議」</p> <p>～活発で良い議論ができる会議のために～</p> <p>説明者：国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官</p>

<p>6. 議題</p> <p>【議題】(1)</p> <p>半田市地域公共交通網形成計画・再編実施計画策定に向けたスケジュールについて</p>	<p>(会長)</p> <p>会議次第の7.「議事」のうち(1)「半田市地域公共交通網形成計画・再編実施計画策定に向けたスケジュールについて」を議題とする。</p> <p>(事務局)</p> <p>様々なお立場の皆さまにお集まりいただいている、この「地域公共交通会議」において、半田市民にとって望ましく、有難がられるような、公共交通網をみなさんと一緒につくっていききたい。そのために、「地域公共交通網形成計画」、「地域公共交通再編実施計画」を平成29年度までに策定する予定で進めていきたい。</p> <p>「地域公共交通網形成計画」とは、「地域にとって望ましい公共交通網のすがた」を明らかにする「マスタープラン(ビジョン+事業体系を記載するもの)」としての役割を果たすもの。国が定める基本方針に基づき、地方公共団体が協議会を開催しつつ、交通事業者等との協議の上で策定する。まちづくりと連携し、かつ面的な公共交通ネットワークを再構築するために実施する事業について記載する。</p> <p>具体的には、基本方針、計画の区域、計画の目標、事業実施主体、達成状況の評価、計画期間などを記載するもの。</p> <p>「地域公共交通再編実施計画」とは、「マスタープラン(=網形成計画)」を実現するための実施計画の一つ。網形成計画において、地域公共交通特定事業のうち「地域公共交通再編事業」に関する事項を記載した場合に作成することができる。この計画は、地方公共団体が事業者等の同意のもとに策定する。</p> <p>具体的には、実施区域、事業の内容、実施主体、実施予定期間、事業実施に必要な資金の額や調達方法、事業効果などを記載する。</p>
--	---

続いて、本年度から平成 31 年度までの 4 か年の主な取り組みを説明する。

平成 28 年度は、まず、①半田市の地域特性と公共交通の現状把握をします。具体的には、

(1)上位、関連計画の整理として、半田市総合計画や都市計画マスタープランなどのまちづくりの方針との連携が必要なため整理する。

(2)地域特性の把握として、人口動向、分布、土地利用の方針、主要施設の立地状況などの調査、確認する。

(3)公共交通の現状把握として、これまでの取り組み経緯や公共交通利用者、経費の推移などの現状を調査、整理する。

現状把握のためのアンケート調査につきましては、市民アンケート及び交通事業者ヒアリングを実施する。

②アンケート調査等のうち、市民アンケートは、無作為抽出の 3, 0 0 0 人の市民を対象に郵送によりアンケート送付します。回収率は 4 0 %程度で、人数は約 1, 2 0 0 人を見込んでおり、各中学校区で、約 2 4 0 人のサンプル数になる。

アンケート内容は、自家用車の利用状況、外出の目的及びその目的の頻度、外出時の移動手段、公共交通を利用しない理由や改善要望などを聞き、公共交通に対する市民の需要や意識を調査、整理する。

交通事業者に対するヒアリング等は、事業者の現状把握に加え、事業者側視点からの課題や問題点を調査整理するもの。

③地域公共交通網形成計画（素案）の策定については、半田市の地域特性と公共交通の現状把握、アンケート等による需要の整理等のみでは完全でないため、素案の概略版のようなものを今年度末までに策定したいとするもの。

④地域公共交通会議は、今年度、今回を含め 3 回を予定している。

平成29年度来年度は、

①利用者アンケート調査として、現に路線バスを利用されている方を対象とした調査を行う。

利用者アンケートでは「利用されている方の年齢層」「利用目的」「利用区間」「運賃」「利用する理由」「路線バスへの意見・要望」などを調査する。

②住民懇談会では、アンケート調査では、なかなか見えてこない課題や問題、あるいは、意見や要望などを集約する。各中学校区単位で2回行い、各地域が持っている課題、要望といったものを、話し合いや議論することで、見える化していきたい。

ここまでの現状把握やアンケートなどをまとめ、

③現状の地域交通、主に既存の路線バスに関する課題の整理

④現状課題に対する対応方針を検討するなかで、平成29年度中に、「地域公共交通再編実施計画」を策定していきたい。

また、この再編実施計画の策定と並行して「基幹路線バス運行計画」についても検討を進め「素案」を策定したいと考えている。

平成30年度には、基幹路線バスの運行計画を速やかに策定し、10月に基幹路線バスの実証運行ができるよう進める。

平成31年度は、基幹路線バスを実証運行から本格運行へと移行し、地区路線バスの検討グループ会議の設置を進める。

この基幹路線バスと地区路線バスの違いですが、基幹路線バスは、半田市内の主要な場所を走る路線になる。地区路線バスは、市内中学校区、あるいは小学校区単位で、必要な地域に、その地域の実情にそったバス、あるいはタクシーなどの交通機関を地域と話し合いながらつくっていく路線になる。

そして、総合公共交通マップを作成する予定だが、公共交通は、これで終わりではなく、一定の形ができあがっても、その結果を検証するとともに、皆様とともに評価・検証し、改善等をすすめていく。

つづいて、A3のスケジュールをご覧ください。

上段の「地域公共交通会議」は、本日お集まりのみなさまと進める会議になるが、各年度3回ほどを予定している。時期については、今年度、9月、2月を予定しているが、多少の前後はある。

ワーキンググループは、市の上位・関連計画との連携が必要になっていることもあり、市の庁内各課、交通事業者、中部運輸局などと下部組織を設置し、もう少し掘り下げた議論をしていきたい。

市民アンケート調査、地域公共交通事業者ヒアリングは、今年度10月から進める。また、地域公共交通利用者アンケート、住民懇談会ワークショップは平成29年度6月から進める。

住民懇談会は、再編実施計画の素案ができる前とできた後に実施する。

基幹路線バス、地区路線バス、各計画の策定等は、先ほど説明したとおりなので省略。

事務事業及び委託事務等は、事務局がすすめるものなので、確認のみをお願いします。

(会長)

ただいまの説明について、質問、意見はあるか。

## 質疑 地域公共交通と観光の関係について

(半田市観光協会)

地域公共交通の再編のなかで、観光の必要性の視点があつたが、観光などで地区外から来た方の意見をどのように集める予定か。事務局として、地域公共交通と観光の関係をどう考えているか。

(事務局)

観光も公共交通を考えるうえで重要と認識している。ワーキンググループの委員構成について、観光部局も参画していただく予定。

平成28年度実施する市民アンケート調査で、観光について記載するなど意見を集めたい。

(会長)

平成28年度のアンケートになかで、観光という視点でのアンケート調査を行うべきだと考えるがどうか。

(事務局)

仕様書の具体案などが出来ていないが、今後、28年度の調査事業の中で、観光に関する事業についても調査するよう進めたい。

(市民経済部長)

今年度、観光客を対象としたアンケートを実施する予定がある。事務局と相談して、その分を反映したい。

## 質疑 利用者アンケートについて

(市議会議員)

29年度に利用者アンケートを実施するとあるが、利用者アンケートを28年度にできない理由があるか。

(事務局)

議会特別委員会の提言や条例制定などを受け、概ね2年以内

には、何らかの方向性を示したいということで、事業を前倒して平成28年度からの2か年計画で計画を策定する。一方で、こういった計画策定にかかる事業は、国の補助が受けられるが、平成28年度事業の国庫補助は締め切りが過ぎており、補助を受けることができない。

そのため、平成28年度に実施する事業は、市の単独費用で実施することになるが、費用負担の大きい利用者アンケートや住民懇談会等を平成28年度に実施してしまうと平成29年度に本来受けられるはずの国の補助を受けることができなくなる可能性が高いため、利用者アンケートや市民懇談会を含めた計画策定委託業務を29年度に行ない、補助申請するもの。

#### 質疑 障がいへ者のバス対応といった具体的な要望について

(社会福祉協議会)

バス路線の運行スケジュールなどの説明が主だったが、障がいをもった方のバスを運行してほしい等、運行路線ではない具体的な要望なども本会議で議論するものか。

(事務局)

意見としては、この場で受けるものと考えている。基幹バスの対象について、ワーキンググループなどで議論する必要がある。また、車両についても検討する必要があるので、その時に議論する場面もある。

(知多乗合)

バスにはノンステップバス、低床式バスなど様々なタイプがある。ただ、バス停の環境で間々ならない部分もある。障がい者が利用しやすい環境整備などについても、この場で議論できるとよい。

### 質疑 スケジュールについて

(愛知県タクシー協会知多支部長)

今のスケジュールだと4年後に基幹バスの路線を見直すと説明だったと思う。国からの補助が受けられる、受けられないといった話もあったが、この計画では遅すぎるのではないか。

(事務局)

基幹路線バスについて、29年度の計画策定を受け、速やかに30年度中には実証運行したいと考えている。従来の知多バス路線と姿を変えて運行したい。市として、地域の意見や本会議等で意見をいただき、基幹路線バスについて事業者と一緒に見直していきたい。基幹路線バスでカバーしきれない部分を地区路線バスあるいはタクシーを運行する。

地区路線バスについては、地域との話し合いを進めるうえで、前倒しする可能性はある。

(会長)

事務局から説明は、4年後というよりは、平成30年度の実証に向けた運行を速やかに行うものだったと思う。

スケジュールが緩慢だという意見もあると思うが、過去に行ったコミュニティバスは、バスに対する市民意見やどこに行きたいといった想いを抑えることなく、やや拙速に進めてしまった反省もある。今回は市民アンケートなど、丁寧に行い、継続できる地域公共交通をつくっていきたい。

### 質疑 市民アンケートの人数について

(成岩地区代表区長)

市民アンケート3,000人の根拠を知りたい

(事務局)

近隣市町で実施している同様のアンケートなどを参考にして  
いる。

3000人にアンケートを送り、約40%1200人程が回収できる見込みで、各中学校区単位では240人になる。それくらいのサンプル数が集まれば分析できる算段。

### 質疑 アンケートの内容及び国の補助金について

(成岩地区代表区長)

アンケートについて、バスを利用していない方から「なぜバスを使わないのか」という意見を集めた方がいいのではないか。

また、国の補助金が受けられないのではといった話があったが、折角、この場に国土交通省の方が見えるのだから、補助金に代わるものがもらえないか相談したらどうか。

(事務局)

アンケートについては地域性を加味しながら、ご指摘のようなアンケートを実施したい。

(国土交通省)

この会議は本年1月に設置しているが、その時点では、国からの補助が受けられる地域公共交通網形成計画等を策定することは決まっていなかった。その後、計画を策定することになったと思うが、その時点で国の補助要望は締め切られていたため受けることはできない。計画策定に係る国の補助等に代わる制度はなく、国の補助等については公平に扱う必要があるため、半田市を特別扱いできるものではない。

(名古屋大学准教授)

遅いという意見もあるが、とりあえず公共交通を再編できればいいというものではない。これから2年かけて、今の路線をどうするといいのか、何が大切なのかなど、様々な議論を経て、皆さんで路線をつくっていくことが大事。そう考えると30年10月の実証運行というのは決して遅くない。

また、今のスケジュールに住民懇談会やワークショップとい

った記載が少ないが、そういった部分が充実してこないと、本当に必要な地域公共交通ができてこない。特に地区路線については、各地区での話し合いの場を充実させていくことが大切。

基幹路線は、主に今の知多乗合の路線になるが、半田市全体のことなので、この部分は30年10月までにある程度、市が主体となり、事業所と一緒に決めて、示していく必要がある。基幹路線がある程度決まったところで、カバーできない部分を地区路線として、各地域に考えていただく必要がある。そのため、地区路線の運行については、今のスケジュールよりもっと早くなる可能性がある。

補助金については、中部運輸局愛知運輸支局の方をもってしても、28年度に受けられるものではない。それよりも、29年度の補助を受けるうえで、効果的な事業の進め方、申請の方法などのアドバイスを受けた方がいい。半田市は、計画策定に向けて本気になっていることへのサポートをお願いしたい。

地域公共交通網計画は方向性を示すマスタープランだが、再編実施計画は、どこをどう走るかなど、細かい計画になる。この計画ができると、知多乗合が路線等を変更する際に、この会議で協議しないと変えることができなくなる。また、再編実施計画は、知多乗合の合意がないと策定できないため、ぜひ、この会議を通じて信頼関係を築き策定していきたい。

再編実施計画は、現在、3自治体しか策定しておらず難易度が高いが、国として奨励しており、策定できれば様々な支援を受けることができるので目指していきたい。

鍵は、地区路線の部分が埋まっていないので、その部分を進めていく必要がある。

## 質疑 バス以外の公共交通について

(亀崎地区代表)

バスに乗っている人が少ないが、今回の話について、バス路線の見直しが前提になっていることについて、どう考えているのか。タクシーも重要な公共交通ではないのか。

(事務局)

まず、基幹路線バスの運行計画を進めたいといった点については、説明させていただいたとおり。各地域を運行する地区路線については、各地区の実情に応じて運行することになり、その場合はバスに限定することなく、様々な選択肢があると思う。

(中部運輸局愛知支局)

地区（伊良湖や新城など）によっては、コミュニティバスを走らせるよりも、タクシーに要した費用を全額補助した方が安価になるケースもある。こういった調査報告書についても中部運輸局のHPにもアップしているので時間のある時に見ていただき、この会議の議論での参考にしていただきたい。

(会長)

様々なご意見をいただき、今後、スケジュールの細かい部分を詰めていく必要はあるが、概ね、事務局から提案のありましたスケジュールについて進めることに承認いただけるのであれば拍手をお願いしたい

**【拍手】**

(会長)

ありがとうございました。今後、今回示したスケジュールで進めていきたい。

<p>6. 議題(2)</p> <p>路線バス運行経路の一部見直し(案)について</p>	<p>(知多乗合)</p> <p>今回、路線バス運行経路の見直しという議題で提案したのは、今年秋10月を目途にダイヤ改正を行う予定です。その内容は、出発地が「知多リハビリ病院前」、「緑ヶ丘」、「県社前」とそれぞれだが、例えば、「市役所前」の昼間帯のダイヤは統一性がなく、わかりやすい、覚えやすいダイヤとは言えない。これをできる限り工夫し、例えば、毎時10分に「市役所前」バス停に行けば、知多半田駅のバスに乗れるといったダイヤにしたいと考えている。</p> <p>「市役所前」バス停には、半田市役所、半田市民病院がある。また、「半田運河・蔵のまち」は半田市の観光地の核になっている。その経由地を見ていただくと、一部はJR半田駅、一部は中町を経由する経路になっている。これらを統一することが、JR半田駅と名鉄知多半田駅を必ず結ぶバスとして、市外からのお越しの方あるいは観光客の方にも安心して利用してもらえるものになると考え整備していきたい。</p> <p>本年度から公共交通会議について、当社も積極的に関与し、現状よりも便利になった、バスが使いやすくなったと評価してもらえるよう、会議に参加の皆さんとの連携を図っていきたい。それと並行して、自社で今できることが何かを常に考えていきたい。</p> <p><b>質疑 路線の変更について</b></p> <p>(半田市観光協会)</p> <p>今の説明だと、停まらないバス停ができるということか。</p> <p>(知多乗合)</p> <p>社内でまとまっていないが、「市役所前」、「蔵のまち」、「JR半田駅前」「銀座本町」「南本町」「末広町」経由して「知多半田」に行くルートになる予定</p>
--	---

(半田市観光協会)

「港本町1丁目」「中町」に停まるバスはなくなるということか。

(知多乗合)

亀崎線については、今のところ、そういった予定

(半田市観光協会)

ダイヤをわかりやすくすることも大切だと思うが、地域公共交通会議が始まって、これから、区長さんらを始め、住民にバス路線がどうなっていくのかのプロセスを伝えなければならないこの段階で、亀崎線に停まらないバス停ができてしまうというのはいかがか。

(会長)

この件については、現在、社内で検討中とのことなので、「港本町1丁目」「中町」でどれくらいの方が利用されているのかを調査いただき再度、提案していただけるといいのでは。

(名古屋大学准教授)

今回の路線変更は軽微なもの。「港本町1丁目」「中町」の利用者が少なく、他の路線に合わせてわかりやすいダイヤになるのであれば、支障が少なく、すぐにでもできる変更。

次第で協議事項になっているが、現時点で、具体的になっていなければ協議事項にすべきではなかった。本会議で協議事項にして、10月に改正するのであれば、変更の1か月前までに、本会議で承認を得る必要がある。ただ、次の会議の予定が9月になっているので間に合わない。

(事務局)

知多乗合から本事案については軽微なものなので、協議というよりも方向性を示し、この場で報告するものだとのお話をいただいていた。次第を協議事項のままにしてしまったが、この点について、知多乗合との調整が不十分だった。

(会長)

現時点では、知多乗合の提案を報告事項したということで理解してほしい。正式にダイヤを改正することになった場合には、委員の皆さんに、その経緯や利用者の状況などを報告する。

(事務局)

議題の(2)については、協議事項となっていたが、議決をいただくような事案ではなくなったので、報告事項としていただきたい。

### 質疑 本会議での要望について

(市議会議員)

この会議では、既存の事業者に様々な要望ができるのか。

(中部運輸局愛知支局)

路線の廃止については、県が主催するバス対策協議会で承認を得る必要があるが、本事案については、軽微なものなので議論する必要はないと考える。

この会議では、地域公共交通網形成計画などの策定に向けた話し合いをする場で、事業者に対して様々な要望をするものではないと思う。

(名古屋大学准教授)

この会議は、みんなで話し合っ、一緒にやっ、ていこうとするものなので、これをやるから、あれをやっ、てくれというものではない。

通常、路線の廃止については、少なくとも6か月前に運輸局へ申し出が必要。さらに、愛知県では運輸局に提出する前に8月と2月に行われるバス協議会で提案する必要がある。

しかし、本地域公共交通会議で承認が得られれば、1か月後に廃止することができる。

<p>6. 議題(3) 先進地視察の実施について</p> <p>【報告事項】</p>	<p>(事務局)</p> <p>知多乗合さんと協議するなかで、今後、本会議で承認を得るような手続きを進めたいと思う。</p> <p>(事務局)</p> <p>今年度中に委員の皆さんと、市のバスを使って県内の先進地を視察したい。行く場所については、名古屋大学准教授と調整するなかで決定していきたい。</p> <p>(会長)</p> <p>今後の日程や視察先を検討し、委員の皆さんにお知らせする。</p>
<p>7. 情報交換</p>	<p>(会長)</p> <p>市民公募委員として参加していただいたので、ご意見があればお願いしたい。</p> <p>(市民公募委員)</p> <p>住民が主体となって話したほうが良いといったお話だったが、この会議が年3回しかないことで、結局、市が決めてしまうのではないか。</p> <p>(会長)</p> <p>スケジュールにもあるように、今後、住民懇談会などを実施していくので、むしろ、そういった場で、市民の意見を伺い反映していきたい。</p> <p>(会長)</p> <p>これにて平成28年度第1回の地域公共交通会議を終了させていただきます。</p>